

車座トーク（自治会と市長との意見交換会）開催報告

対象地域：大津自治会

開催場所：大津農村環境改善センター

開催日時：平成 27 年 12 月 14 日（月）19 時 00 分～20 時 45 分

参加者：自治会側【地域住民の方 37 人】

市側【染谷市長、三浦秘書政策課長、高橋協働推進課長、秋山協働推進課課長補佐、駒形秘書政策課係長】

内 容

①大石大津自治会長あいさつ

- ・こういう機会ができることを大変うれしく思う。
- ・市長就任以来、2年数ヶ月、私たちが見ても「大丈夫か」と思うくらい精力的にがんばってくださっていることに敬意を表したい。
- ・本日は、大津地区のために、よくなるために、忌憚のない意見を出してもらって、市長からも返事をいただいて、よりいい所にしていきたい。これが全てであるので、有意義な時間をすごしていただきたい。このことが、染谷市長に市政運営の役に立てば幸いである。

②市長からの市政報告

■はじめに

- ・68自治会、全てを回る車座トークの第一回目にこの大津地区にお邪魔をさせていただいた。
こんなに大勢の皆さんにお集まりいただいた。心より感謝申し上げます。

■車座トーク実施の目的

- ・車座トークは、地域に出向き、地域の皆様とひざを交えながら、その地域のローカルな話として、その地域の資源、魅力、可能性について、直接お話を伺い、市政の「ココ」はどうなっているんだという疑問について、市のやっていることを御理解いただけるようになればいいなということで伺った。
- ・市政運営については、広報紙、市のホームページ、FMなどで紹介している“つもり”だが、“つもり”は“つもりであって”、市民の皆さんに「どうなっているのか」というところまで御理解いただいているところに至っていないというのが実感。
- ・こうしてひざを交えてお話させて頂き、いろんなことを知っていただくきっかけになればいいと思っている。

■市政運営について

- ・市長就任から、2年数ヶ月が経ったが、最初は不安だったが、だんだん課題が見えてきて、「やれること」、「やらなければいけないこと」が見えてくる中で、ある意味「手ごたえ」、「やりがい」を感じている。「楽しい」と思っている。
- ・課題はたくさんあるが、「今日もがんばるぞ」という気持ちでいる。
- ・この2年数ヶ月、市政運営の考え方、方向性について、市民の皆さんにお話ししなければいけないと思っていた。それをどういう形で伝えたら、一番自分の思いが伝わるのかを考えていたが、選挙公約で、「安心、安全」、「公平、公正」という言葉を使って市長になった。
- ・安心、安全など「政治の要」は、「命を守ること」であると思っている。
- ・市内で高齢者の一人暮らしが増えている中で、一日1,000円以下で食費をまかなっている人たちも増えている。
- ・両親が共働きで働いても「貧困」というレベルの子供たちもいる。

島田は貧困率を調べたことはないが、就学援助費を支給している子供（小学生・中学生）が529人（10月末現在）いる。これは約7%の子供の割合となる。

貧困率は、18歳未満となるので、だいたい1割くらいいると推測している。全国平均は16%を超えている、6人に1人と子供が貧困状態にある。

- ・貧困とは、いろんな所得の方がいる中で、ちょうど真ん中の所得の人の可処分所得の半分以下の暮らしをしている場合を言う。今、その貧困のラインは年間122万円。1999年（平成11年）には143万円あったので、豊かな国になっているといっても、その貧困の金額は下がっている。
- ・島田で暮らす皆さんが、住みなれた地域で、安心して生涯を全うできる、そういう街をつくる、島田の街で子育てして良かったとお母さんたちに思ってもらえる街をつくる、若い人たちがここで、子育てができる街をつくっていく、そういう、福祉、医療、介護、子育て支援、教育を市民のために提供するまちをつくっていかなければならない。それが市長の役割であると思う。

■稼ぐしくみづくり

- ・そのためには、これからの時代、右肩上がりの時代ではないので、いくら借金しても、未来の人が返せない時代になったときに、どうやって、「稼ぐしくみ」をつくっていくのかということがないと、医療、介護、福祉、教育、子育て支援も進んでいかない。
- ・病院、包括ケアシステム、24時間訪問介護、学校支援員なども一生懸命やるが、「稼ぐしくみ」ここをしっかりつくっていかなければならない。これが今一番腐心しているところである。
- ・財源をどう確保していくかということは、少しずつ法人市民税などが増えていくとは思いますが、それ以外に、街の中の一つ一つの会社が元気になって、ひとりずつ雇用を増やすような、地場の産業が元気になる方法、企業誘致など、よそから来る人を助ける方法もしていかななくてはならない。
- ・島田の街の中に仕事が落ちる入札制度について改革をしてきた。市が発注するものの8割くらいは市内の業者がとっている。これをもっと上げる。例えば、建設、土木であれば100%近くが市内の業者が取れるようなシステムにしたい。来年度には、「総合評価制度」の導入を検討している。本社や営業所等

の有無や、前年度の利益の何割くらいが島田の営業で上げたものなのかを、島田市に根を張って仕事をしてくれる会社が総合点数が高くなる、そういう仕組みを作る中で、他市の業者が入札に入ってきて、島田の業者が取れる制度を考えている。

- ・今年からは、他市の業者が取っても、下請け、孫請けは市内の業者にしてもらうことを契約の時にも話している。
- ・新東名島田金谷インターチェンジ周辺の土地開発について、32.7ヘクタールの面積であるが、農振除外や土地改良区の受益地にもなっているので、そう簡単ではないことは承知しているが、そこを新たな企業誘致の拠点にしていきたい。
- ・旧金中跡地については、現在アイデアコンペを行なっている。(全国公募)
- ・1月5日から書類を受付け、3月の末までに県と一緒に最優秀賞を選んでいく。あくまでもアイデアコンペなので、アイデアコンペを基にして、平成28年度は事業化の計画を立て、その事業化の計画を基にした、企業のプロポーザルを実施したいと考えている。
- ・あの土地の約束は、土地は島田市が、上物は県がということだったが、県も財政的に困難な状況であるので、民活を使って開発をしていきたいと市と県は考えている。
- ・同時に、来年の6月1日からお茶の郷については、県に譲渡する。県がリニューアルをして、県のお茶の都博物館(ミュージアム)として新たに開館する。
- ・蓬萊橋周辺も多く観光客が来るが、何も建てられない状況であったが、国土交通省の許認可も少し緩やかになって、協議会を1年作って検討した結果については、「ミズベリング」という形で国土交通省の事業の一環として、許可をいただいて、蓬萊橋のところに、観光物産所(お茶をお出ししたり、お土産物を売ったりすることができる施設)造れそうだということで、造るのは29年度になるかもしれないが、28年は協議会を作って「観光で稼ぐ」ということでやっていきたい。
- ・大井川鐵道の抜里駅もトイレの改修に対する支援、川根にはパラグライダーの基地を設置していくということで「観光で稼ぐ」ことの素地をつくっていききたい。
- ・農業も新たな付加価値で「稼ぐ」ことを考えていかなければならない。
- ・「稼ぐ仕組みをつくる」ということを、今力を入れてやっていかなければならない。

■これからの行政に必要なもの

- ・少子高齢化、人口減少の時代にあって、税収が減ってくるということは、国も毎年1兆円もの医療費が増えていく中、道路をつくるお金は、平成12、13年頃に、国土交通省は地方に15兆円を越えるお金を分配してくれていた。しかし、去年も今年も当初予算で5.1兆円、3分の1の補助金しかつかない。県も165億円を超える道路予算を35の市町に分けてくれていたが、去年も今年も46億円である。
- ・つまり7割カットという厳しい国や県の財政の中で、市が新たなものをつくろうとしたときには、なかなか補助金は付かない。
- ・同時に昭和40~50年代に建てた公共施設や道路の老朽化への対策が待たなしの状況となっている。

・島田は1,156橋あり、1年間に230ずつ点検を実施し、5年に1度の点検をしていかなければならない。市道は1,100kmをちょっと越える延長があるが、1年間に220kmずつ点検を実施し、5年に1度の点検をしていかなければならない。点検をすることによって悪いところも出てくるので、修理をして長持ちをさせていかなければならない。新たなものをどんどん作ってきた時代と違って、今は長寿命化だとか、インフラの更新だとか、目に見えないものに大変お金がかかる時代となっている。

- ・このように世の中が動いてきている中にある行政というところを御理解いただきたい。
- ・したがって、行政は「合意形成」を図っていくということの仕事がとても大事になっている。納得をしていただいて進めていくことが大事である。
- ・自分自身無理をしたかなあと思っていることは、島田の図書館には駐車場がない。ゆったりと過ごしてもらいたいが、みんな1時間以内に帰らなければならぬということ、図書館の利用率は上がっていない。だったら駐車場がしっかりある広いところに作ったほうがよかったのかもしれないし、そういういろんな議論が交わされてものが造られていかないと、厳しいことが起こってくる。

■市立島田市民病院の建設

- ・市民病院は今の野田の場所に建てますということを昨年の基本構想の段階で決めさせていただいた。
- ・昨年の段階で決めさせていただいたことは、野田に建てること、大体500床前後、建設費は250億円前後、完成年度は平成32年、診療科目は今と同じような科目といった内容である。
- ・今年、基本計画を10月の末に策定した。ベッド数は445床、敷地内の救急棟の東側に道路を付け替えたり建てること、屋上にヘリポートをつくりたいということ、今の計算では大体7～8階建てになるということを決めさせていただいた。
- ・議会では毎回、このことに関連した質問をいただいております、250億円の建設費について、平成32年はオリンピックと重なる年に250億円でできるのか。300、350億円になったらどうするんだ。建設の場所が地盤が悪いのではないかと、前は地盤が悪く液状化するから街中と言っていたのに、本当に大丈夫なのか。今回、療養病床をなくしたため、そのことに関連する質問をいただいている。
- ・救急棟と検診棟はまだ新しいので、両方とも残す。東館は残すよりは建て直したほうがコスト面で良いと考えた。
- ・災害時に液状化するのではという懸念については、あそこの地盤は粘土質で砂地ではない。静岡県第四期被害想定を見ても、液状化するとはなっていない。したがって、地盤補強をどういうふうにして建物をしっかり建てていくかということ、現代の建築技術を持ってすれば十分に可能であろうと思っている。
- ・周辺の道路が使えなくなるというご心配については、国一バイパスと県道は、基幹道路として一番高い規格で整備されることから、通れなくなるということは想定をしていない。多少のヒビや隆起があったとしても、液状化で全く通行できないという想定はしていない。
- ・療養病床を配置しないことについては、現在35床の療養病床があるが、長く入院している方は1～2人で、たいていの方は、次の入院先が決まるまでの間、療養病床にいたることが市民病院の場合には多い。通常の療養病床の使い方とは違う。

- ・これから国の方針として病院ごとの機能別が進んでいく。今の市民病院は7：1で、患者さん7人に対して看護師が1人という体制をとっている。(救急病院の体制である。) このため診療報酬も高い。これから病棟ごとの7：1となるということは、急性期の患者さんを扱っている病院は、7：1となるが、療養病床の部分は13：1、15：1という判定になってくる。このような状況を「ケアミックス型」といって、混在している状況になると、診療報酬が7,000～8,000万円くらい下がってしまうという見積もりがある。現在、入院されている方は、一般病床の中で診させていただくという判断をしている。
- ・機能としては今までとは変わらないが、療養病床がなくなるということである。
- ・平成19年から閉鎖していた精神科の診療も今回なくなる。精神科で入院できる病院は近隣にないため、医者の確保ができれば再開したいと思っていたが、入院患者も受け入れて、診療も行うためには、医師が3～5人必要であるが、それだけの医師は確保できない。このため、新たな病院には精神科はつくれないということになる。
- ・島田は療養型で入院する病院がないと議会等でも質問を受けており、市が作るか、誘致するか、考えたらいいのではというご意見もいただいている。ただ、志太榛原地域では1,062床の療養病床がある。県の志太榛原医療圏では充足していると判断されている。この療養病床を増やすには、県の医療審議会に諮って、他市の行政、医療機関、医師会の方々の許可がないとベッド数は個人病院でも増やせないのが現状である。
- ・昨年も個人病院が100床の療養型の病院をつくりたいという話があったが、委員会(審議会)の中では認められなかった。つくりたいけど作らせてくれない現状も御理解いただきたい。
- ・2025年を目指して、国は大きな医療制度改革をねらっている。病院、施設から在宅へという流れである。グループホームは在宅にカウントされるので、これからグループホームは増えていくのではないかと。
- ・この流れは、現実には大変難しいと思っている。在宅で診ることが困難であれば施設で診てもらうことが一般的になっている現状で、在宅へという流れは大変なことだと思っている。この国方針は、今後様々な困難があると思っている。
- ・島田は島田市民病院が市民の皆さんの安心、安全、命のよりどころになれるように、いい病院をつくって、いい医療機器を整えていかないと医師も来ないのが現実。
- ・配管等の傷みが激しい状況において、病院の建設については、地元の皆様の御理解を賜りたい。
- ・病院を建設する間の駐車場の確保については、バイパスの高架下の活用、民有地を借りたりしながら、今と同じくらいの台数を確保していきたい。新たな病院の駐車台数は今のところ、964台の予定となっている。
- ・新たな病院をつくる際には、県道の右折レーンがないことによる渋滞を解消するため、右折レーンを設けていきたいが、その導線(今の病院への進入するところか、その北側か)をこれからの設計の段階で対応していきたい。

③質疑応答

番号	質問内容	回答内容
1	■病院入院中に患者さんが退屈しないように、散歩できるようなスペースを新病院に設けることは可能か？	●これからの設計だと思うので、新病院の敷地内に散策ができるような場所については、担当部署に伝えておく。
2	■新病院駐車場を立体にした場合、有料となるのか？	●有料化のことは考えている。駐車場を立体にするかどうかは、これからだが、行政が立体にして使う方法もあれば、他市の病院のように、民間が建設してくれて、民間が経営するという方法もあるので、何台用意するのかということとあわせながら考えていきたい。 ただ、高齢化に伴って、平地がいいとの意見もあるので、平地に何台確保できるかによって立体は検討していきたい。
3	■藤枝の市立病院と比較してしまうが、中がゆったりしていて、また入院したくなるほどだ。図書館や喫茶店があって気持ちがいい。こういった要素も、これからの設計にいかして欲しい。	●病院を担当している者に伝えたいと思う。レストランやコンビニは新しい病院には設置されていることが多いので、検討はしていると思うが、設計の方でどのくらいコストカットができるかである。建設費が高くなれば、病院の経営自体が大変厳しい状況になる。病院が経営できる範囲の中できちっと造る当然のことと考えている。去年の基本構想では1㎡あたり40万円で計算した。今年の基本計画では49万円で25%増しで計算している。その中におさまるようにコストカットをしていかねばならない。お金が足らなくなったら病床数を減らすのかと質問を受けるが、445床の病床数は決めたことなので減らさない。もし、コストカットができるとするならば、職員が事務を執ったり、研修をする場所はコストダウンできる場所でもいいので、カットのしかたは色々あると思っている。28年には基本設計をつくるので、基本設計まで進んでいけば、金額的にもある程度はつきりしたものがお示しできると思う。
4	■大津地区から近い、伊太の陸上競技場はどういう利用のされ方を考えているのか？	●陸上競技場をつくるといったあの場所も、そのままになって2年が経過しているから、私もずっと気にかけている。しかしあそこは、第二東名の盛土を積んだところであるから、井戸水を掘ろうとしても井戸水は出ない。田代の郷の温泉までは水道が来ているが、そこに使う水の量の管なので、例えば、運動施設にトイレを造りたいとか、シャワールームを造りたいとか、下からまた水道管を太くしていく工事が必要になるかもしれない。トラックをつくれれば、着替えするところも観覧席など付帯設備が必要だといわれる。あそこをどう活用したら、市内外の人に利用してもらいようになるのかを腐心している。 今市民スポーツの充実ということでは、横井の人工芝のサッカー場を整備し、島田球場も耐震化など整備してリニューアル工事にかかっている。やはり市民の皆様の利便性の高いところをきちっとやっていかなければならないと思っており、伊太の陸上競技場を作ったときに、中学生、高校生が利用するときに、送り迎えする人がいなければ、使ってもらえないだろうし、平日にトラックをどれくらいの利用者があるのだろうか。そこに億単位のお金をかけて、どういう施設にしたらよいのか、それを行政がやるのか、民活でやれる方法があるのか、限られた財源の中で、選択と集中が必要。 余談ではあるが、本議会で給食費を無料にしたらどうかというご提案をいただいた。

		<p>給食費は、材料費だけをご父兄からいただいている。人件費や光熱費や施設代は行政が出している。この材料費だけでも4億円になる。この4億円を無料化することと、この4億円があったら、学校にもっともって支援員をつけることができるし、障害のあるお子さんたちの手当もできるし、子育て支援のところも充実できるし、若い人たちが子どもを産みやすい政策も使える。だから、その財源をどこから確保するのか、そしてどちらを選ぶのかということが、やはりこれから大きな議論になる。</p> <p>もうひとつ、コミバスの路線を来年度から一部変更となるが、路線がなくなるところもあるし、充実するところもある。コミバスの来てない地域の人にとっては、高齢化していく社会にあって、足がなくなってしまうので、足を確保してくれないかということの中で、タクシー券を出してくれないかという要望もいただいている。75歳以上の人が月に1回、市民病院にいったら、往復2,000円、年間で24,000円、仮に25,000円とした場合、75歳以上の高齢者は14,800人ほどなので、3億7,000万円になる。これから高齢者の方が安心して暮らせる、病院にも出かけられるまにするには、どういう制度が良いのか、大きな課題である。今、コミバスにかけている予算は年間2億4,000万円なので、それ以上のお金をまた、タクシー券としてやるのがいいのか、いろんな方法があると思う。</p> <p>例えば、うちの自治会の高齢者は地域で見る。病院まで送り迎えする場合に、市で車を貸与するなどの支援はできると思う。ただ、人工代を出したり運賃は取れない。保険をかけることはできる。地域の助け合いの中で高齢者を見ていくことも一つの方法である。お弁当を安い値段で高齢者に配りながら見守りをするなど、地域の中でやれることをやる中で、行政が支援していく仕組みが必要。</p> <p>これから3年間の間に方向性を出していくが、公式レーンにはならないかもしれないし、フィールドの活用も考えないといけない。</p>
5	<p>■大津は自然、人間、人柄に恵まれている。大津小学校では見守り隊がボランティアで活動してくれている。子供の貧困化に高齢者、元気な高齢者が活用できるのではないかな？活用について、行政がコーディネートしてもらいたい。</p>	<p>●大津小学校は地域の力が届く学校だと思う。まさに、高齢者は元気なうちは働いて、手に職のある方は、技術を若い人に伝えていく。自分自身が労働力となり、地域の担い手として活躍していくということであると思う。その力が子育てにも配分されていくことも必要であると思っている。</p>
6	<p>■稼ぐ仕組みの考え方はいいと思う。大津は平らなところはないが、自然が多く、自然で稼ぐ仕組みはないかな？いつまでも健康で働ける場があればいい。少しでもお金が得られれば。農地や山林を活用して稼いでいく。そのような土地利用に加えて、若い人の意見を反映していく。そういった仕組みが大津の活性</p>	<p>●大津には財産区もある。マウンテンバイクは大津の山があっているらしいが…。(マウンテンバイクは山が荒れるのでダメとの声) 自然の道が荒れてしまうのではだめだ。 (ハイキングコースをマウンテンバイクで走るのも危険の声)</p>

	化につながるのではないかと？	
7	<p>■介護や病気にならない前に、みんなで集まって、介護予防していく、高齢者の方が子供さんに知識を伝えていく。そのような方策が必要なのではないか？</p>	<p>●私は常、日頃、「きょうよう（今日用事がある）」と「きょういく（今日行くところがある）」が必要であると言っている。居場所づくり事業を今、やっている。長寿介護課、健康づくり課にご相談いただくと、補助金が出る。地域の高齢者の方やあるいは小さなお子さんに来ていただいて、一緒に遊んでもらうような取り組みも進んできている。体操教室については、今までは、要介護度のチェックに時間がかかっている、ケアマネが聞き取りをして時間がかかっていたが、最近は機能チェックリストというものがあって、大体20分～30分で、要支援にあたる人については、体操教室、元気教室などの支援メニューを選んで、その日からやっていただけるようなシステムにかえてきている。4月から7、8ヶ月しか経っていないが、大変大きな成果を挙げており、要介護に移る人が減ってきている。中には、要介護から要支援に戻った人もいる。これを新総合事業というが、医療と介護と生活支援と住まいを総合的に支援をしていくという事業を島田市ははじめています。</p>
8	<p>■新病院から療養病床をなくすことについて、そこを追い出された人もいます。そのような人は、特養（特別養護老人ホーム）や老健（介護老人保健施設）でも受け入れてもらえないことがある。住民が助け合っていないとわかってはならないことはわかるが、我々が要支援、要介護になっても行くところはない。そうすると、隣近所、隣組が頼りになってくる。でも、市では居場所づくりの事業を実施しているが、声を上げてやってくれる人＝リーダーがいない。これからは担い手（人材育成）が大切だと考える。新総合事業の行く末も見えない中で（政策が中途半端）、財源を人材育成に投入し、誰でも寄り添える居場所づくりを身近な居場所づくりを大津でも作っていきたい。</p>	<p>●一人暮らしの高齢者の見守りは相当手厚く実施しているつもり。高齢者400人近くに毎週、1回は電話連絡して変わったことはないかなどチェックし、連絡が取れないときには30分以内にその家に駆けつけられるように民生委員の皆様にも御協力いただいている。今年、新規事業として、認知症のいるご家族の方に、ベッドから立ち上がってしまったり、家から出てしまったりしたときにブザーが鳴る報知のシステムや徘徊する高齢者御自身にGPSを持ってもらう、こういったものに対する補助も行なっている。十分に周知されていない、利用率が上がっていない。</p>
9	<p>■お医者さんが地域に出向いてくれる方法はないのか？タクシーで病院に行っても往復10,000円かかる。先生に来てもらっても往診料で10,000円かかる。</p>	<p>●現実には難しい。保健師や看護師は地域でふれあい事業をやっているところは、健康相談や血圧の測定などを実施している。病院では「特定ナース」といって、医療行為のできる看護師の育成を行なっている。28年度には訪問看護ステーションを立ち上げたいと思っており、医者の指示書に基づき保健師が出向き、真夜中でも医療行為ができるような方向で看護師の養成もしている。今、健康づくり課と病院、両方にある訪問看護ステーションを統合して、病院の検診棟の2、3階に24時間訪問看護ステーションを28年度中に開設したいと考えている。</p>
10	<p>■①志太榛原医療審議会は地域間の医療連携によって、はじめて実現することだが、医師</p>	<p>●①広域の病院の連携については、首長、事業管理者、医師会、それぞれの思惑があって、非常に難しいものだと感じている。島田と焼津の市立病院において、医師の相互派遣によって補うような</p>

	<p>の世界では、自己主張が激しく、連携などは困難だと考える。したがって、市長（首長）がリーダーシップをとって地域医療連携をきちっとやっていただきたい。</p> <p>②地域の見守り、老人、子供の貧困などについて、子どもの見守りは大津では実施している。家庭で厳しい人たちであっても、我々を頼りにしてくれる。地域で取り組むことは大切だが、それを行政がサポートしてほしい。そういう仕組みをつくってほしい。</p> <p>③大津には多目的広場がない。市内でも唯一ない地区である。学校のグラウンドがあるが、学校運営にも支障をきたすことになる。例えば、ローズアリーナの芝生ひろばの一部を大津地区に解放してくれればと考えている。</p>	<p>横の関係を保ってきている。信頼を紡いできたところを今後もきちっとやっていきたい。（相互補完を行なっていきたい。）28年度には、市長戦略部に病院の計画と病院の広域連携を推進する推進室を設けていくので、病院の建設、広域連携を進めていきたい。</p> <p>②地域が助け合って取り組んでいくことが、まさに「地域間の差」になっていくと考えている。市としてもお手伝いしていきたいと考えている。皆さんにお願いがあって、フード・ドライブ（1か月以上の賞味期限があって保存が効く食品を持ち寄ってもらって、生活に困っている人や貧困家庭に提供すること。）を年に4回やっていて、この回数を増やそうと考えている。この次は1月5日～29日まで市役所で行なう。フード・ドライブを推進しているのは県内で島田市だけである。</p> <p>島田市はいいところがたくさんあって、県内23市で離婚率が一番低いだとか、軽犯罪が少ない。ただ振り込め詐欺のアポイントメント電話が県内で比較的多いまちである。いい人がたくさんいるであるとも思う。市民の元気、自信、誇りを持って稼ぐシステムをつくるのが端的に言えば地方創生である。</p> <p>③ローズアリーナの芝生広場は、現在、ドクターヘリが降りる場所になっているので、新しい病院にドクターヘリのヘリポートができれば、あの土地を色々使うことはできると思う。大津地区に多目的広場がないという課題は認識している。</p>
11	<p>■中央公園のミニ鉄道を手伝っている。市外の方から、こんなにいい施設があると言われる。昨年、総合案内板がないので設置してほしいと「市長への手紙」を出した。その回答は、ローズアリーナの正面玄関や、ミニ鉄道乗り場付近に一目で公園内の施設や順路がわかる施設総合案内板が必要であると考え。ローズアリーナ正面付近に設置したいと考えておりますとの回答が平成26年9月にあったが、1年以上経っているが総合案内板の設置がされていない。</p>	<p>●お返事をしておきながら、大変申し訳ありません。担当課に確認する。中央公園の施設はもっと市でもPRすべきだと考えている。ローズアリーナのサブアリーナの床材はバレーボールの公式戦ができるものを使っている。でも全然宣伝されていない。全国の合宿誘致など呼べると思うが、もっと宣伝していきたい。</p>
12	<p>■大草の釣耕苑という貴重な建物がある。能舞台も備えている。利活用について市で使ってくれないかと思っている。</p>	<p>●釣耕苑の素晴らしさは十分に認識している。しかし市で買い取って維持管理していくとなると、費用がかかる。何に使うのかを明確にし、目的をはっきりさせて、議会を納得させる理屈が必要である。（寄附していただいても維持管理には費用がかかる。）</p>
13	<p>■このような会を開催しても「子育て世代」の皆さんが参加しない。「子育て世代」と行政が話し合う場を設定してもらいたい。</p>	<p>●ママが集まる場所にも行かせていただいて意見交換をさせてもらっている。専業主婦でいながら稼げるシステムをつくりたいとかの意見があって、歩歩路の喫茶店はママたちをお願いをしている。そこがママたちが集う場所になっている。次の世代を育てることは、私の役割だと思っている。若い人の声をどんどん吸い上げるため、市で開催する委員会、審議会の委員の半分を50歳以下にしたいと考えている。若い人は意見も言うが、自分たちで発信して動いてくれる。我々にはない発想力をもって意見を言って行動してくれる。若い人たちが行政に関わるような、まちづくりにつな</p>

げていけばいいなと考えている。商工会議所青年部、商工会青年部、JC など若い世代の組織があり、別々に活動していたが、来年の3月には、この団体の若い人たちだけの組織を立ち上げていくと聞いている。今、島田市は世代交代の時期を迎えている、若い人たちが、このまちの担い手となってもらえるよう支援をしていきたい。

百人会議を人材育成を目的に実施しているが、新たなメンバーを募集している。是非、まちづくりの担い手と人材育成をかねているので、2年間になるが活動していただける方があったら、自分のやりたいことを言ってもらえれば、観光をやりたいとか、高齢者支援やりたいとか、防災やりたいとか、やりたい人たちが集まってやるようなかたちになってくるので、そちらにもお声掛けいただければありがたいと思う。

※ 回答は全て市長から回答した。

④当日の様子

